
私を変えてくれた者

ルナ姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私を変えてくれた者

【Nコード】

N76870

【作者名】

ルナ姫

【あらすじ】

男嫌いの三井遥^{みついはるか}。

友達に助けられながらも学校で生活をしている。

ある日、渡辺という男に告白される。

そこを振り切ったもののいろんな所で遥に苦難が襲いかかる。

さあ、どうする遥！

第1話 男なんて大嫌い！

第1話 男なんて大嫌い！

もう、どっか行ってよ……。

ジロジロと不気味な目で、こっちを下から上へと舐めまわすように
見ているあの目。

男なんて大っきらい！

そんなわたしは、みついはるか三井遥。

ある日のことだ。

「おいっ！三井っ！B組の渡辺が呼んでるぜ。」

はぁ、とため息を吐いた。

すると、肩を叩いて勇気つけようとしているのは、いしかわあゆみ友達の石川愛美。

「ほら！早く行ってこいよ。」

愛美には、いつものようにアドバイスをもらっていて小さい頃から
の幼なじみだ。

「イヤッ！追い払ってきてよぉ。」

子供のように駄々をこね始める。

だが、そんなのは愛美にはお見通しなのだ。

「いいから行って来てみな！以外にいい人かもよ！」

あぁ、いつもの一言。

「絶対に行かないよ。」

愛美も飽きたのか私の机に腰をかける。

「じゃあ、言いたいことを言って戻って来な！」

私は、イスから立ち上がった。

「わかった。」

私は、渡辺という男の所にゆっくりと歩いていった。

渡辺くんは恥かしいのか、私から目を少し逸らしている。

「なんですか？」

そういうと、渡辺くんはビックリしている。

「別の所に行つて話しませんか？」

そのセリフは聞き飽きた。

「ここで言えない事ならお断りします。」

渡辺くんは、ガツカリしている様子だが私には関係ない。

「じゃあ、はなします。」

決心したのかスウーと息を吸っている。

すると話し始めた。

「僕、三井さんはとても可愛くて綺麗だし髪も長くてサラサラしてて大人っぽいところを

初めて見た時からずっと、すっ・好きでした！付き合ってください！」

ああ、長いしお世辞ばかり！

しかも、くねくねしてて気持ち悪い。

もう我慢の限界！

「もう、イヤ！それ以上近づかないで！」

ああ、言ってしまったく（・・）

渡辺くんは、下を向いて落ち込んでいるようだ。

でも、私には関係ない。

「すみませんでした。三井さんが男嫌いなのを知ったのですが、気持ちだけでも伝えたかったので、

では、さようなら・・・。」

渡辺くんは、下を向いて廊下を歩いているから人にぶつかりフラフラしている。

私は、教室へと戻った。

ああいう出来事があつた後は、近寄ってくる女たちがいる。

まず、普通の友達。

当然、私の事が嫌いで嫉妬する女たち。

次に、私を使つて相手に告白をしようと思える女たち。
最後に、相手の事が好きだけど断つた私を憎む女たち。
最初に来たのは愛美。

愛美は、さっきの事について聞いてきた。

「それで!？」

ニコニコした顔で楽しそうに聞いてくる。

「断つたに決まつてるじゃん。」

愛美の顔から一瞬怒りが読み取れた。

「また! 遙さあ、バカすぎっ! 渡辺くん結構モテるのになあ。しかも、遙さあ……。」

ドンッ!

誰かが愛美を手で押しのけた。

「さっきは、どうなったの？」

この女は、きつと私を使つて告白を考えている女だろう。

「断りましたけど。」

と言うと、女はちよつとした頼み事をしてきた。

「頼みたい事があるんだけどいいかな。」

「いうか! ちよつとしたことじゃないし!

「ごめんなさい。こつちもいろいろあるから。」

女は、「わかつた。ごめんね。」と言つて戻つていった。

愛美は、さっき何を言おうとしてたのは何だつたんだろう?

「愛美!？」

愛美の姿がない! と思つたら紗希いほといった。

紗希いほというのは、同じクラスの庵原紗希。

「さっきの女だれ? 私の背中を押した女!」

愛美は少しキレていたが、紗希は愛美のキレっぷりに笑っていた。

「渡辺くんの事が好きな人。たぶん、告白を手伝つて欲しかったんじゃない?」

すると、紗希が顔を横に振つていった。

「あの女には、無理だね。男は、みんなあの女の過去を知ってる。」

そう、あの女は中3の頃シンナー・臍ピアス・知らない男との夜遊び・万引きなどの犯罪を犯していたのだ。

「はじめて知った。」

私がそう言つと愛美もうなずいた。

キンコンカンコンコン　キンコンカンコン
登下校のチャイムが鳴り響く。

「よっしゃあ！3人で焼肉でも食いに行こうぜい！！！」

私と紗希はうなずき、靴に履き替え学校を出た。

静かな細い道を通つて焼き肉屋甚平に着いた。

ウーーン

「いらつしやいま・・、つてまたお前かよ。」

なぜか、愛美と仲が良いようだ。

「今日もレジ？割り引きなっ！」

レジの人は、うなずいて席へと案内してくれた
同じ年だそうだ。

「注文しまーす。えーっと、カルビとギアラと・・・・・・・・・・。」

紗希が横から、

「あと、チューハイも。」

私は、お酒も飲めないのでアップルソーダジュースを頼みホツとしていた所に・・・

ウーーン

「いらつしやいませ、3名様ですね。こちらへ」

うわぁー、渡辺くんだぁー！

渡辺くんたちは、こつちに気付いていないようだ。

「愛美、紗希あっちみて！」

2人は、しっかり渡辺くんの方をみているのに気付かない

渡辺くんがいる。というと2人は気付いた。

「隼人じゃん。」

「雅畿もいるぜ！おい。」

!!!!!!!!!!!!

呼んじゃダメでしょ

3人がこっちへ来ている。

雅畿という人と愛美が話している。

渡辺くんも私がいることに気付いた。

「あっ！三井さん。」

何か言わないと！

「ああ、こんばんは渡辺くん・・・」

気まずい空気になってしまった。

どうせればいいのおく、助けて！愛美、紗希！

第1話 男なんて大嫌い！（後書き）

ぜひ、読んでくれた皆さま。

お楽しみいただけたでしょうか？

お読みになった方は、コメントをお願いします。
続きをお楽しみに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7687o/>

私を変えてくれた者

2010年11月7日20時47分発行